

柏市民活動ニュースレター

2024年3月発行 第32号

《トピックス》柏市民公益活動団体が守り育てた「^{しただ}下田の杜^{もり}」が環境省の「自然共生サイト」に認定されました

柏市民公益活動団体「NPO 法人下田の杜里山フォーラム」（以下、「同団体」）が守り育てた「下田の杜」が、環境省が令和5年度に新たに創設した「自然共生サイト（※）」の初めての認定122か所の一つとして、令和5年10月25日に認定されました。

（※）「自然共生サイト」とは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する制度です。



【以下、環境省「自然共生サイト」より抜粋】

柏市の自然拠点として位置づけられている「下田の杜」は、この地域の地形の特色である谷津田が残り、台地・斜面・低地で構成され、樹林地や斜面林が保全されています。台地に浸透した雨水が斜面を通過して湧水となり、流れや溜まりが人間を含めた生きものたちの生命の水となり続けてきました。



私たち（同団体）は、市街化により周辺地域では見られなくなったこの地形・里山風景が、豊かな生態系を築き、生きものたちの多様な生息場所となっていることから、コンパクトながら多様な地形や水資源を大切に、生物多様性の保全をしています。



同団体は、奇跡的に残るまちなかの里山「下田の杜」の保全活動に長年にわたって携わってきた柏市民公益活動団体であり、今回の「自然共生サイト」への認定は、柏市民にとっても大きな喜びであり、誇りでもあります。



<目次>

下田の杜が「自然共生サイト」に認定されました	・・・ 1
令和6年度たまご補助金交付団体が決まりました	・・・ 2
市民活動講座「市民活動のための広報・チラシづくり」	・・・ 3
協働まちづくりサロン「災害時における三者連携に関する意見交換」	・・・ 4
市民活動講座「これからの柏の葉のまちづくりと市民活動」	・・・ 5
たまご補助金団体の活動紹介（虹色未来大学、きれいな地球に住み隊）	・・・ 6
柏・愛らぶ基金団体の活動紹介／ふるさと交流都市の「只見ふるさとの雪まつり」	・・・ 7
サポートコーナーからのお知らせ	・・・ 8

たまご補助金

令和6年度 柏市民公益活動育成補助金 (たまご補助金) 交付団体が決まりました!

柏市では、設立間もない団体に重点を置き、団体が自主的、自発的に活動を行うための財政的支援制度「柏市民公益活動育成補助金(たまご補助金)」を設置し、交付終了後も活動資金を集め、活動を継続できる団体を育成することを目的とし、毎年、補助金を交付しています。

このたび、令和6年度柏市民公益活動育成補助金(たまご補助金)の交付5団体が決まりました。交付団体は1年間を通じて、市民活動サポートコーナーの伴走支援のもと活動を行っていきます。

令和6年度 たまご補助金 交付団体

学術文化

柏の葉eスポーツ研究会

(事業名)

高齢者向けテレビゲーム教室

団体運営

虹色未来大学

(事業名)

社会課題解決のための次世代リーダー育成事業

学術文化

クロリス ミュージック
Chloris Music

(事業名)

柏市内の子どもたちにクラシック音楽体験を届ける事業



まちづくり

風早南部かるたプロジェクトチーム

(事業名)

風早南部かるたによる町おこし

観光

ちゃーりんぐ柏

(事業名)

次世代へ柏の歴史の魅力を伝えたい!パート2



※交付団体は、審査会にて応募事業の①ニーズ・公益性、②具体性・実効性、③発展性、④経費精算の適正性を判断し、決定します。



活動紹介ポスター展

交付団体は、1年間でどんなことをするの?

交付団体はたまご補助金を活用し、採択された事業を1年間行います。また、交付の要件として、ポスター展・中間報告会・成果報告会など定められた各会への参加や、書類の作成と提出なども行いながら、柏市市民活動支援課・市民活動サポートコーナーと連携を図りながら活動を行います。(写真は過去のポスター展等各会の様子)



中間報告会



成果報告会(翌年度の4月)



補助金制度や交付団体の詳細は、市民活動サポートコーナーまで!

12月22日（金）、団体活動のチラシづくりや広報の一步目の知識の定着を目的として講座を開催しました。当日は市民活動団体や活動に関わる15名が受講されました。

団体外の人に活動を広めていくためにも、チラシを作ることは活動のなかでも欠かせない取り組みですが、日頃の活動では時間に追われながら作ることもしばしば…。

伝わるチラシ作り、と聞くと「センスがないから…」と及び腰になってしまう方も多いですが、重要なのはシンプルでも必要な情報が適切に掲載されていること。

作る頻度が高いチラシだからこそ、いつも入れ込む情報を事前にまとめて整理しておくことで、誤字や情報の記載漏れを防ぐことができます。また、会の目的や活動内容をあらかじめ文字化してまとめておくことで、文章を書くフェーズで毎回時間を取られる…ということも緩和されます。



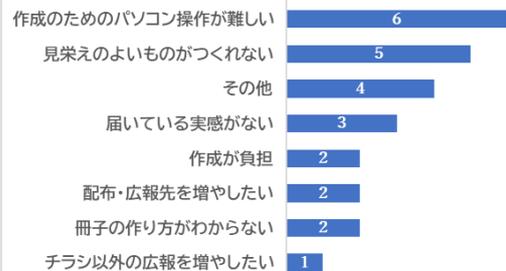
●講座の内容

今回は市民活動の広報の特徴や年齢による見やすいフォントサイズ・ユニバーサルカラー等の知識のインプットと、実際のチラシ見本を使った比較体験、ワークシートを使った自団体の情報シートづくりの3つを主に行いました。

最近は便利な作成ツールも増え、印刷所への入稿も簡単にできるようになったことで、一見見栄えは良いものの、よくよく読むと必要な情報が抜けていて参加につながらないチラシになってしまうことも多々あります。

実技の前の情報整理をして、チラシの質を高めることを目的に実施をしましたが、参加者の皆さんからは「もっと実際の作業を行いたい」「見栄えのよいものを作りたい」という次のステップを学ぶ意欲的な講座への声も上がりました。

3. チラシ作りや広報についての悩みごと



●広報の悩みごと(アンケート)結果

また、講座終了時に実施した団体の広報に関するアンケートのうち、「チラシづくりや広報の悩みごと」の設問の回答を抜粋してご紹介します。

チラシ作りや広報についての悩み事は「パソコン操作が難しい(6票)」が最も多く、続いて「見栄えの良いものが作れない(5票)」という回答が多くみられました。その他では「言葉の使い分けが難しい」「二次元コードの作り方が知りたい」等、具体的にチラシ作りで困った経験からの声が寄せられました。

コロナ禍を起因として日常生活や活動に関するICT化が急加速したことで、チラシ作り等にもその影響が出ているようです。

頂いた声を参考に、今後のサポートコーナーでの団体支援内容や、次年度以降の講座内容も検討していきます。なお、二次元コードの作り方や、チラシのアドバイス等、通常の窓口相談でも承っていることもございますので、お悩みのときにはどうぞお気軽にサポートコーナーへお声がけください。



1月17日(水)に、千葉南部災害支援センター、災害支援ネットワークちば(CVOAD)、柏市社会福祉協議会、防災安全課、市民活動支援課が集まり、災害時における三者連携に関して意見交換を行いました。

今回は特に令和5年台風13号による茂原等の被災地で、千葉南部災害支援センター、CVOADが千葉県内で初めて三者連携を意識して被災者支援活動を行ったため、そこでの実際について千葉南部災害支援センターの加納氏より報告いただき、それを踏まえて、柏市を含めた千葉県北西部が被災した場合を想定して議論しました。

災害時の三者連携とは、自治体、災害ボランティアセンターを担う社会福祉協議会、そしてNPO等民間の災害ボランティア団体が、連携して災害対応を行っていくことを指します。

柏市においては、この三者が一堂に会しての意見交換がこれまでなかったため、今回の協働まちづくりサロンを機会に今後、定期的に情報共有していく場を作っていくことを目指して開催しました。

令和5年台風13号県内被災地における災害支援団体による被災者支援と三者連携の実際

加納氏による報告では、まず三者連携のそれぞれの主体について説明したあと、主に以下のような報告がされました。

被災者支援が円滑にできた点においては、令和元年度房総半島台風以降、千葉南部災害支援センターが、被災自治体や日本財団など災害支援団体を支援する様々な組織との関係づくりをしてきたことが大きな要因であったこと。平時からの関係づくりが重要である。

一方で、とある被災地の災害ボランティアセンターでは、開設時の案内に「できないこと」が列記されていた。これでは被災者は何も依頼できず、これで「ニーズなし」との判断。現実には災害ボランティアセンターができることは限られているが、はじめから被災者を寄せ付けない姿勢では支援は成り立たない。

災害時の三者連携を考える場合、三者が対等な関係であることはなく、それぞれが担う役割やボリュームや時期が異なること。また、ボランティアの役割は、単に労働力としてでなく、被災者に対するエンパワメント、復興へ向かうための気力づくりなども重要である。

被災地で具体的に行ったのは、災害ボランティアセンター案件以外の案件対応のための調整や、被災家屋の対処などに関する住民説明会、法律専門家による講座、そして、ポスティングなどを行い独自に被災者支援のリストを作成すること。また、足湯、相談会なども行った。

意見交換

加納氏の報告を受けて東葛地域における三者連携について様々な意見交換が行われました。

- ・実際の体制づくりとして、誰が何を担うのか。
- ・被災地でのニーズの掘り起こし方について、現状、災害ボランティアセンターすら十分認知されていない中で災害時にどう周知するか。
- ・声をあげられる被災者とあげられない被災者が出てくるが、それをどう支援していくのか。
- ・災害時のコーディネーションを誰がやるのか。
- ・外部の災害支援団体等を募る方法。
- ・さまざまな支援物資を誰が配るのか。…等々

課題は尽きませんが、このような課題をそれぞれの立場でどのように考えているか共有することが第一段階。今後それらを深掘して、実効性のある三者連携の体制をつくっていければと思います。



■講座の目的

本講座は、柏の葉地域における先進的なまちづくりや市民活動の経緯や特徴について学ぶとともに、まち歩きをしながら、当地域の持続的な成長や“まち”の成熟化に向けた、これからのまちづくりや市民活動のあり方について意見交換を行うことを目的として開催されました。

■会場：柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）

■日時：2023年2月24日（土）午後1時30分～4時

■講座の概要

【第1部：講座】

初めに、UDCK 副センター長の三牧講師より、柏の葉における市民活動や地域イベントの系譜を時系列で紹介したうえで、①ボランティアな市民活動、②ビジネスと連携した地域活動、③まち協やふる協などの地縁組織による活動の3つのタイプを意識しながら、今後はこれらの活動の連携を考えていく必要性に触れました。

次に、「ままでい」代表の篠原講師からは、10年以上に及ぶご自身の柏の葉での活動を踏まえて、これからの柏の葉の市民活動に向けて、まちの成長に応じたターゲットの変化に着目していく必要があること、今後に向けては、①活動場所②情報発信ツール③モノやノウハウの共有の3つが必要であることが述べられました。

【第2部：まち歩き】

三牧講師に解説を聞きながら、UDCK から KOIL、あ・し・た、チコル、グリーンアクシス、アクアテラスや KOILTERRACE、かけだし横丁や花壇をめぐり、公と民が連携しながら作られてきた柏の葉のまちづくりについて、その成り立ちと現状について理解を深めました。

【第3部：意見交換】

UDCK の糸島ディレクターが柏の葉のまちのイベント情報を束ねた「かわらの葉」アプリについて紹介したあと、篠原講師から、事業者主導の活動にも地域の事業者による CSR 的なものから外部事業者による収益目的のものまでさまざまなものがあり、いずれにせよ基本的なまちのルールの遵守は徹底される必要があること、市民活動の持続のためには少なくとも持ち出しはなくなる程度の事業性を持たせることが必要であることについて指摘がありました。

また、市民活動サポートコーナーの松清から、地域住民だけでは担い手不足という課題があるなかで、NPO などの団体との連携や育成の視点も重要であることが述べられました。

これを受けて会場からは、①柏の葉のような恵まれたまちではどうしても住民が受け身になってしまうなかで、主体的・能動的な活動を生み出すことの難しさがある点、②そこを超えていくには、このまちにしかないものを地域で育てていく視点を持った「消費者 2.0」になっていく必要があること、③柏の葉のまちでは意思をもっている住民も活動を起こせずにいる現状があること、④多世代が一緒になれるようなお祭りを企業や大学の協力も得ながら地域で作り上げられないかという提案、⑤市民活動を議論するにはまずは地域のターゲットとビジョンを明確にする必要があることなど、様々な意見も出され、予定時間を超える白熱した意見交換が行われました。

最後に、三牧講師は、様々な論点が出された今回の講座を受けて、市民活動のあり方について、柏の葉のコミュニティや市民活動のこれらに向けて様々な課題はありますが、その可能性や方向性についての示唆も得られたと思います。このまちが本当に暮らし続けたいまちになるよう、今後**も議論や連携・実践の機会を設けていければと思います**と総括されました。



UDCK 副センター長
三牧浩也さん



「ままでい」代表
篠原晋寧さん



柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）団体の 活動紹介（虹色未来大学、きれいな地球に住み隊）

柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）を活用して、令和5年度は、設立間もない7つの市民公益活動団体が活動しました。ニュースレターでは、順次、たまご補助金団体の活動状況をお伝えしてきましたが、本号で最終回になります。新しい仲間たちの活動に注目してください。

■団体名 虹色未来大学

■団体紹介

人生100年時代となった今、シニア世代が新たな経験や感動を感じながら日々を送れるような取り組みとコミュニティづくりを柏市～我孫子市を中心に行っている団体です。「場所を問わず思いを共感・共有した人が仲間としてつながっていく活動を推進したい」という思いから「志縁型コミュニティ」という考えを提唱し、活動しています。主な取り組みとして、シニア対象のスマホ教室・AIを使ったまち歩きイベント等を展開しています。

■活動訪問記（サポーター 大石）

12月23日に高柳近隣センターで行われたスマホ教室にお伺いしました。スマホの使い方について、14名の参加者それぞれのニーズに合わせて、ボランティア講師が丁寧にやりとりをしていました（この日は近隣高校の学生も講師として参加していました）。

中にはここに集まることで日頃のちょっとしたことを話せる、と、講師や参加者同士の会話を楽しみに来られている方もおり、この場自身が地域のコミュニティとして機能している一片を感じ取ることができました。



スマホ教室やまち歩きイベントは市内各地で開催しています



講習はほぼマンツーマンで実施。ボランティア講師も市民から募っているため、わからない部分を利用者目線で丁寧にヒアリングしながら親身に解説します

■団体名 きれいな地球に住み隊

■団体紹介

地球温暖化の要因の1つとされている、我々が排出するプラスチックによる汚染をなくすため、一人ひとりへの注意喚起と、柏市内の公道、公園などの主にプラスチックのゴミ拾い活動、時に千葉海岸砂浜などの環境汚染原因であるマイクロプラスチック片のゴミ拾い活動などを行っています。

■活動報告

日々の独自のゴミ拾い活動の他、柏市が主催するイベントや、町会のごみ拾い活動に参加。交通量が激しい場所、駐停車禁止など危険場所では、国交省に連絡し回収してもらいました。

また、都内で実施された大規模集会ではたまご補助金で作成した「きれいな地球に住み隊」ののぼり旗を掲げてPR活動したり、プラスチックの劣化したサンプルを実際に見てもらうために、千葉の海岸でマイクロプラスチックのサンプルを回収し、劣化したごみの実態をPRしたりしています。

身近なゴミ拾い活動が、地球規模の環境保全につながっていることを意識すること、地域をより大きな課題を見据える窓と考えることはとても大事だと思います。

より多くの市民の賛同を得て、皆で地域をきれいにする活動に広がっていくことを期待しています。



柏・愛らぶ基金団体の活動紹介

柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）は、市民の皆様からの寄附金を活用して市民公益活動を支援する制度であり、現在、保健福祉や環境など様々な分野で活動している 27 団体が基金団体として登録しています。ニュースレターでは、順次 愛らぶ基金団体を紹介しますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



(基金の詳細)

NPO 法人ケアラーネットみちくさ

介護家族が介護をしながらも安心して「住み慣れた柏で自分らしく暮らす」ことができるように、人とつながる居場所の提供を行っています(2013年設立)。主な事業はカフェみちくさ亭の運営や日替わり弁当の宅配・生活サポートで、近年は社会的関心が高まるヤングケアラー^(※1)の支援にも力を入れています。基金は介護者支援事業に活用されています。

(※1) 本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを、日常的に行うことのこと



(団体の詳細)



柏市ひとり親（母子、父子、寡婦）福祉会

柏市内を中心としたひとり親家庭に対し、年間をとおしてラコルタ柏やパレット柏など公共施設を利用した母子・父子・寡婦家庭の様々な相談、親子が楽しめる講習会や交流会等を実施し、気軽に参加できる居場所づくりを行っています(昭和25年設立)。また、毎年会報誌「かたくり」を発行し、多くの市民に実施活動を報告し、活動への理解や支援を募っています。

基金はひとり親家庭への支援事業全般に活用されています。



(団体の詳細)



【旅ログ】ふるさと交流都市の「只見ふるさとの雪まつり」

「只見町」をご存じでしょうか？福島県西南部にある日本有数の豪雪地帯です。柏市とは「ふるさと交流都市」になっています。

毎年2月に開催される「只見ふるさとの雪まつり」は、町の人口の4倍もの来場者があるという一大イベントです(とはいえ、ゆったりと余裕のある雰囲気です)。毎年広報かしわで公募した柏市民も訪れ、今年は太田市市長も参加されました。

夜には大雪像に映し出されるプロジェクションマッピングや「おんべ」と呼ばれる勇壮な火祭儀式、祈願花火など夢のような時間が流れるお祭りです。屋台の食べ物やお酒もとってもおいしいです。

雪の季節だけでなく、四季折々の美しい自然と人の温かさあふれる自然首都・只見に一度はきやれ(おいで)！



柏市 HP「ふるさと交流都市只見町」



[第5期只見町ふるさと大使 三好玲子]

「柏市民活動フェスタ 2024」が5月19日(日)に開催されます！

◇ 市民活動の祭典「柏市民活動フェスタ 2024」が、5月19日(日)に、過去最多の84の市民公益活動団体が参加して、柏駅周辺の4つの会場とオンラインを使って開催されます。

皆さま、春の一日、ご家族やお友達を誘って、是非お出かけください！

■日時 2024年5月19日(日)

10:00～16:00(屋外会場)

9:30～17:30(パレット柏)

■会場 柏駅東口ダブルデッキ、ファミリかしわ前広場

柏駅前通りハウディモール歩行者天国

パレット柏、オンライン配信(YouTube)



市民活動講座・協働まちづくりサロンのご案内(4月～6月)

■協働まちづくりサロン

(企画中)6月22日(土)15:30～17:30 「(仮)若者地域活動」

まち match づくりステーションのご案内(4月～6月)

4月1日(月)～30日(火)	インフォメーションセンター
5月1日(水)～15日(水)	消費生活センターほか
5月16日(木)～31日(金)	柏市民活動フェスタ
6月1日(土)～15日(土)	骨髄バンク推進連絡会
6月16日(日)～30日(日)	NPO法人かしわ環境ステーション

～編集後記～

柏の誇りJ1柏レイソルは、昨シーズンはJ1残留争いを強いられましたが、今シーズンは幸先良く上位でスタートを切りました。今シーズンこそは、何としても最後まで上位争いを続け、あわよくば「アレ」を狙ってみたいものです。

さて、市民活動団体の皆さんも、新年度を迎え、柏レイソル同様、新たな目標に向かって活動を開始されたところだと思いますが、表紙の「下田の杜」同様、市民活動を通じて、キラリ輝く「柏の誇り」を沢山育てましょう。
(編集：及川愛二)



柏市民活動ニュースレター 第32号 2024年3月発行
 発行者 柏市市民活動支援課 市民活動サポートコーナー
 電話 04-7163-1143 FAX 04-7163-1147
 メール shiminkatsudo-c@city.kashiwa.chiba.jp

